



三鷹中央通信



日本医療機能評価機構

三鷹中央病院は、平成14年に日本医療機能評価機構に認定されました。

2007年 Vol.04

三鷹中央リハケアセンター「運営理念」

「在宅生活への復帰」と「自立支援」を目指しリハビリを行います。障害をお持ちの方の人間としての尊厳を守ってお世話をいたします。明るく家庭的な雰囲気、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行います。

三鷹中央病院「医療理念」

当院は 地域医療の第一線を担う病院であることに誇りをもち いつでも どなたでも診療いたします。常に親切・安心・質の高い医療の提供を心がけ、事故のない病院をめざします。

新年のご挨拶

「年頭にあたり」

医療法人社団 永寿会 理事長 吉田正一
皆様、新年おめでとうございます。

昨年は、当法人永寿会が運営します三鷹中央病院、三鷹中央リハケアセンター、三鷹ふれあい訪問看護ステーションが、皆様方に大変お世話になりました。またご利用頂きましてありがとうございます。本年も昨年同様宜しくお願い申し上げます。永寿会の昨年の大きな動きは、三鷹中央病院の療養病床を一般病床に変えたことが挙げられます。平成11年に、一年がかりで行いました病院の全面リニューアルの完了を機に、平成12年から、病床構成を一般87床、療養35床の計122床のケアミックスに改めました。治療が終わっても直ぐに退院が難しい多くの高齢患者さんを療養病床でゆっくりと月単位で良くなるまでお世話ができるようになり、特にリハビリが必要な患者さんにとっては優しく正しい選択ができたと考えました。しかし一方で、減った一般病床は常時ほ



ぼ満床で、慢性的に救急対応に不都合(主として夜間の救急車の受け入れに支障)が続き、地域の救急医療の一翼を担う東京都指定二次救急医療機関としての責任を充分に果たすことができない状況でした。この打開策として、療養病床の役割は、平成17年5月に開設した老人保健施設の三鷹中央リハケアセンターに負わせることにして、昨年10月1日より全病床を一般病床へ戻す決断をしました。その結果、変更したその10月から、救急車の受け入れ台数は50%増え、12月には198台の救急車を受け入れられました。これまで以上に地域医療に貢献できる体制になったと考えています。今年の正月休みの5日間には、34台の救急車を受け入れ、25人の入院がありました。

今、日本の医療機関は、国からは「医療費の削減」を、そして国民からは「安全で質の高い医療」という両立しない二つの矛盾した要求を突きつけられて困惑しています。

国は、医療費抑制の必要性を声高に叫びますが、医療費31兆円の内、国が支出しているのは25%の8兆円で、米国の十分の一にすぎません。一方、国民の負担は45%に達し、患者の負担増も限界まできているのに、更に増やそうとさえしています。

日本の国の借金は、平成17年末の時点で87兆円、今やざっと830兆円ありますが、バブル崩壊後に、景気回復を狙って、公共投資を思い切った増やしたのが響いているのです。年によって多少の変動はあるものの、公共事業費50兆円、社会保障費20兆円という財政の基調は90年代を通して変わっていません。自分達の失政を棚に上げて、負担を国民に押し付けるのは間違っています。

安部総理の言う「美しい国」は、一体日本のどこを探せば出てくるのでしょうか。もはや高齢者や病気を抱えた弱者のみならず、妊婦や小児にも「冷たい国」になってしまっています。今の日本の

礎を築いてくれた方々が、長寿や病気が治ったことを素直に祝福される温かい社会に戻るのでしようか。

日本の医療は、すでに地方を中心に、崩壊した英国並のレベルに近づいており、最近ようやくマスコミの論調にも変化が見られるようになりました。日本の医療費を、先進国で最低レベルから世界的水準に引き上げ、健全な医療費の分担を本気で議論すべきときが来ていると思います。

「新年を迎えて」

三鷹中央病院 看護部長 山蔭和子
新年明けましておめでとうございます。

昨年また医療問題、それも社会の皆様不安をおおるようなニュースが連日のように報道されました。それらの中には現場で働く者の感覚からすると必ずしも完全には同意できないものも混じっていますが、全体として、社会の人々の医療、病院に対する期待と要望の大きさをあらわすものだと私たちは考えています。

それらに答える道は主に二つあるように思います。一つは、最先端の科学、医学に基づいた、しっかりした医療を行うこと。

そしてもう一つ、多分もっとも大切なこと。それは、「温かい癒しの心」をあらゆることの中に与えること。

この、「温かい癒しの心」こそが、真の医療の原点でしょう。社会がどう変わろうと、人々の暮らしがどう変わろうと、変わることなく医療に求められる「温かい癒しの心」を、今年もまた私たちは追い求め続けたい。

お気づきの点があるかもしれません。ぜひ私たちに寄せください。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



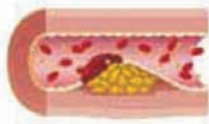
知ってお得な病院の利用術？

当院では非侵襲的で人体に及ぼす影響が無く、検査できる超音波診断装置による生理的検査を充実させております。

今回、超音波検査の中から、特に頸動脈検査と心臓検査をご紹介します。

1 頸動脈検査

現代、日本人の生活様式が欧米化する中、高血圧・高脂血症・糖尿病等の、いわゆる生活習慣病が増加しつつあります。この生活習慣病が動脈硬化を引き起こす一因となっており、最悪の場合、脳梗塞等の重度疾患に繋がってまいります(下図)。



頸動脈超音波検査では、(1)早期動脈硬化の発見(2)血管中のプラークの肥厚具合を精査するという2つの主たる目的を持って検査を実施しております。

2 心臓検査

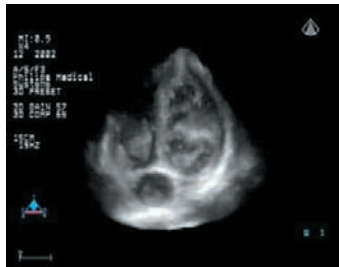
心臓の形態、腔の大きさ、壁の厚さを評価するだけでなく現在では弁、心筋の動き方の評価、左室の拡張能、収縮能、大動脈、肺静脈の大きさはもちろん、血液の流れまで詳細に評価できるまでに

装置の機能も向上してきました。

また、最近では超音波診断装置の性能も大幅に上がっており、3次元的に心臓の動き並びに形態、血行動態を観察診断することが可能となりました。



心臓超音波診断装置



3次元超音波画像

心臓検査におきましては、循環器領域の疾患を抱えていらっしゃる患者様はもちろんのこと、糖尿病をはじめとする生活習慣病の患者様の心機能を測定するという役割も担っております。

小野澤 君夫センター長就任のご挨拶



2006年6月1日から、リハケアセンターで、働いています。消化器外科を35年やってから、老

人病院と老健で10年働いてきました。ここにきて6カ月になります。仕事にようやく慣れてきましたが、まだみなさんに、だいぶ迷惑をかけております。私も60歳を過ぎると、筋力低下と関節痛が起きているのは実感しました。肥満防止と筋力低下防止のためのリハビリとして、10年前から水泳を選んでいきます。週2回、近くのスポーツジムで、1500mゆっくり泳いでいます。今はこれで十分と考えています。

若いころは、登山、スキー、テニス、ゴルフなどをしていましたが、今でも細々と続けているのはスキーです。志賀高原のふもとに疎開したとき、国民学校の体操で、スキーをはかされたのが初めてでした。次は医学部山岳部のスキー合宿でした。初日と2日目は、白馬山麓細野の咲花、名木山のゲレンデで手ほどきを受けました。

3日目は、重いザックとスキーを背負って黒菱小屋までのぼりました。記録を見ると2時間かかっています。午後は深い雪の大斜面を踏み固めて、薄暗くなるまで滑降の練習をしました。夕食後は、縄シールをスキーに教わりながらつけました(スキーツアーの際、

逆送防止の目的でつけるあざらし製のシールの代用品)。

4日目は、薄暗いうちに起きましたが大吹雪。第3ケルンまでの予定は変更されて、第1ケルンまで縄シールつきのスキーで登りました。縄シールをきりすて、雪洞作りをして遊びました。黒菱小屋まで吹雪と深い雪に、登りよ

り辛い思いをして帰りつきました。5日目は、雪が弱くなって、黒菱小屋から第1ケルンまでの往復は大変楽に出来ました。続けて、八方尾根を滑り降り合宿を解散しました(20年前八方尾根に行きましたがゴンドラ、リフト、雪上車などで、ゲレンデが整備されており、昔の面影はありませんでした)。学生時代とインタンの7年間はこのような山スキーを年10日前後していました。

千葉大学第2外科と杏林大学第2外科にいた28年間は、医局のスキー旅行で毎年ゲレンデスキーを楽しみました。子供3人も何回か連れていきました。ゲレンデスキーは私よりもうまくなっています。その後もゲレンデスキーを毎年2、3日楽しんでいきます。孫も上の2人は滑れるようになりました。下の6人はこれからです。

最近スノーボード禁止のスキー場に行っています。専ら湯沢のNASP Aですが他に良いところがあったら教えてください。



三鷹中央病院

【療養病床が一般病床へ】

当院は、これまで病床の種類を一般病床87床と療養病床35床の、計122床のケアミックスとして運営して参りました。また、東京より休日・全夜間診療及び二次救急医療機関として指定を受けております。しかし最近、救急患者様の増加に伴い、一般87床において慢性的な満床状態が続き、救急医療業務に支障をきたしておりました。この状態を改善するために、昨年10月1日に療養病床35床の全てを一般病床に全面見直しを行ない、全病床122床を一般病床として運営していくこといたしました。

入院患者様が引き続き安心してご入院いただくために、職員一同一層の努力を重ねて参りますので、ご理解とご協力の程宜しくお願いいたします。

三鷹中央リハケアセンター

【ボランティアさん募集】

三鷹中央リハケアセンターでは、利用者の皆様により快適にお過ごしいただくため、ボランティアさんの募集をしています。

- ★ ① 昼食時のお手伝い（配膳・下膳）
 - ★ ② 利用者の話し相手
 - ★ ③ 入浴・リハビリへの誘導
 - ★ ④ レクリエーション（習字・囲碁・将棋・裁縫・園芸など）の指導
 - ★ ⑤ 芸等（歌・楽器演奏・ダンス・舞・落語・手品など）の披露
- ★ このほかにも月1回の季節行事を予定しております。
- ★ 定期的に、または休日などに単発で来ていただける方、サークルなどのグループ参加も大歓迎です。

★ 活動日時についてはお気軽にご相談下さい。

担当 霜鳥 TEL 0422-7000700



◎三鷹中央病院

住所：〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-23-10
Tel：0422-44-6161(代) Fax：0422-48-9009

★患者様の訴えを素直に受けとめて、
診療内容をわかりやすく説明し、最善の医療を提供します。

診療科：内科・循環器科・内分泌科・呼吸器科・外科・消化器科・肛門科
整形外科・皮膚科・脳神経外科・眼科・泌尿器科・リハビリテーション科
人間ドック(1日・1泊)・健康診断・各種検診・産業医委託

診療時間：月～土曜日/am9:00～12:00 pm2:00～5:30
日曜・祝日/am9:00～12:00 (救急外来は24時間受付)

病床数：122床(一般病床)
その他：三鷹ふれあい訪問看護ステーション Tel：0422-48-6031

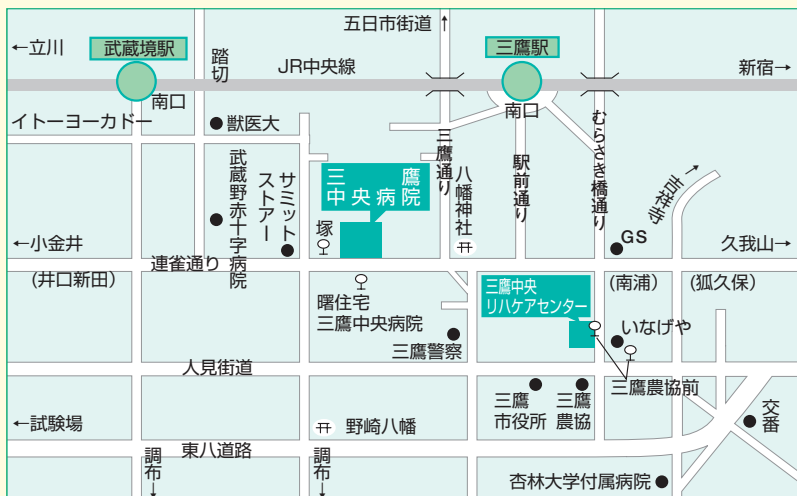
◎三鷹中央リハケアセンター

住所：〒181-0013 東京都三鷹市下連雀9-2-7
Tel：0422-70-0700(代) Fax：0422-70-0701
★心のもった介護、看護、リハビリテーションを提供し
「在宅生活への復帰」と「自立支援」を目指します。

- ベッド数：100床（一般療養100床）
4床室/19室 2床室/1室 個室/22室
- 機能訓練室：207.00㎡・機械浴室・男女別自立浴室
- 通所リハビリ：60人 通所食堂（219.00㎡）
- 訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所



ACCESS



三鷹中央病院

- JR中央線三鷹駅下車(南口)
- 南口よりバス、タクシー(1区間)
 - ④「新小金井駅」行
 - ④「武蔵境営業所」行
 - ⑤「調布駅北口」行
- 『曙住宅・三鷹中央病院前』
下車徒歩1分

三鷹中央リハケアセンター

- JR中央線三鷹駅 南口下車
- 小田急バス ⑧「野ヶ谷」行
- 『三鷹農協前』下車徒歩1分